地球科学輻合ゼミナール

(2008年度 前期 第1回)のご案内

太陽活動気候影響に関する最近の研究より

余田　成男
(理学研究科 地球科学輻合部)

太陽はさまざまな過程を通して地球の進化に影響を与え、その現在の有様に根本的な役割を果たしている。太陽活動のわずかな変動でも、地球の気候に対して有意な影響を与える可能性がある。この発表では、太陽活動の11年周期変動が気候に与える影響について最近の研究をレビューする。とくに、成層圏気候影響研究(SPARC)コミュニティが注目する、成層圏のオゾンや気温の変 化を介してのシグナルの下方伝播について、我々の数値実験結果を交えて紹介する。

沈み込み帯:地震学からみる現状と課題

久家　慶子
(理学研究科 地球科学輻合部)

沈み込み帯では海洋プレートが深さ700～1000kmあたりまで地球内部へ沈み込む。沈み込み開始付近ではプレート間大地震が発生し、深くなると、沈み込む海洋プレートの内部で地震が発生する。沈み込む海洋プレートによって水が地球内部に持ち込まれ、それが各所の地震発生にも影響を与えていると思われる。沈み込み帯ではどのような地震が起こっているのか、地震発生で何が問題なのか、どのような沈み込み帯の構造が考えられているかなど、現状と課題のいくつかを紹介する。

4月30日(水)　午後4:30～午後6:00

場所: 理学研究科6号館 201号室